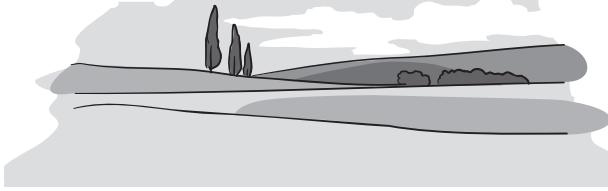


## 俺たちには南下しかない



宗谷医師会  
西岡整形外科クリニック

西岡 健吾

私は20代のころからオープンカーが大好きで、これまで6台乗り継いできた。開業医になって5年、ようやく落ち着いたこともあり？今は所有していないのだが、最近、国産のオープンカーが相次いでモデルチェンジしており、昨年はダイハツからコペン（以前所有）、今年はマツダからロードスター（これも以前所有）、ホンダからS660と、オープンカー好きにとっては嬉しいことである。しかし私にとっては新しいオープンカーを買ったところでしょせん追体験としての喜びでしかなく、購入意欲まで湧かなかったのだが、そんな時に偶然、異形の乗り物の存在を動画サイトで知り、私はその外観を一目見て完全にノックアウトされてしまった。



逆三輪バイク（以下バイク）なのだが、まるでエイリアンの乗り物のような外見に度肝を抜かれた。これまで三輪バイクには定年を迎えた老紳士がゆったりと乗るようなイメージしかなかったのだが、こんなバイクにアラフォー世代が乗れたら、気分はもう宇宙刑事ではないか(笑)。しかも価格は前述のオープンカーと同じ200万円そこそこ、本国とほぼ同じ価格設定であり、某B社のように日本仕様は3割増しといった姑息な真似をしないのも大いに気に入った。ちなみにメーカーはカナダのボンバルディア社、くしくも私が札幌出張で乗ることの多い稚内―新千歳のプロペラ機「DHC-8」と同じ会社であり、調べれば調べるほど購入意欲が湧いてきた。

実は二輪のバイクは学生のころ、大学構内の原っぱで友達に試しに借りて遊んだところ直ちにコケて鎖骨を折って入院して以来、見るのも避けているのだが、三輪ならコケる心配もなく、しかも普通免許で乗れる。「一度しかない人生、いつ終わっても悔いのないように生きよう」と最近守りに入ってきた自

分を戒めるべく、早速購入目的で札幌のバイクショップに連絡、あとで嫁さんに形だけ相談したところ「どうせ買うんでしょ」と呆れられ、さらに古株の職員にはヒステリックに反応され「バイクで何かあったら私たちはどうなるんですか！」と反対されたが、「そうなれば閉院ですね」と、にべもなく返答したせいかそれ以上の追及はなかった。しかし職員の心のケアも万全にと、横浜の産業医研修会のついでにバイクショップに寄り、バイク用の着るエアバッグ（北海道では取扱いがない）を購入した。

さらに納車までにバイクを迎えるため、診療が終わってから夜遅くまでコツコツと物置のリフォームに熱中した。整形外科で培った技術を総動員し、2週間ほどでリフォームが完成し、ささやかな男の夢を実現できた。

そして納車当日、札幌のバイクショップの店員の「北海道で一番早い納車ですよ！」という一言に年甲斐もなく嬉しく感じ、意気揚々と初めての愛車で札幌から稚内まで北上を試みた。運転感覚も乗用車に近く、一泊二日の納車旅行ですっかり慣れ、無事帰ってくるのができた。三輪なのでコケる心配もなく、見た目とは裏腹にたいてい人は乗りこなせるだろう。当然だが風との一体感はオープンカーと比べようもなく凄すぎて、クルマほどスピードを出す気にならないのも逆に安全？かもしれない。

北海道の短い夏の間、バイク乗り、自転車乗りが記念にと、全国から北上してここ稚内を目指す。しかし稚内人はいつだって、同じ道を南下するしかないのだ。

そんな飽きるほどクルマで何十回も往復した道も、バイクに乗ると全く違った、新鮮な風景に感じられるのがおもしろく、20代のころに戻った気分で運転を楽しんでいる。三輪バイクで全身で風を受けながら、今年の夏も稚内から脱北、もとい南下するのが楽しみである。



富良野アースライド完走後、  
田んぼのあぜ道で愛車二台と共に